

# 新潟県魚沼市との連携概要書

## 人と四季が輝く雪の国



平成16年11月、北魚沼の2町4村が合併し「魚沼市」となりました。

本市は新潟県の南東部に位置し、福島県・群馬県と県境を接し946.76km<sup>2</sup>と広大な面積を有しますが、約84%が森林という中山間地の街です。

市内の標高は100mから2,000mの広い範囲に及んでおり、西を魚沼丘陵、東を三国山脈にはさまれた魚沼盆地に位置し、夏は高温多湿、冬は3mを超える日本有数の豪雪地帯です。

また、尾瀬ヶ原も一部地籍に含み、新潟県側からの唯一の玄関口であるとともに、かつて東洋一の貯水量を誇った電源開発奥只見発電所をはじめ、急峻な地形と豊富な水資源を利用した水力発電所が多く立地しています。



## 食でつながる元気なまちづくり

魚沼コシヒカリを中心とする稲作においては、高齢化等に伴い担い手による集約化が進んでいます。

また、ユリ切花は全国一の作付面積を誇っており、産地としての市場地位を築いています。

近年は、冬季山菜としてタラの芽、うるい、ふきのとうの生産が拡大し、通年の営農に寄与しています。これら農産物や加工品の需要拡大につなげる方策として魚沼ブランド推奨制度を設けるとともに、市の重要施策の一つとして「食でつながる元気なまちづくり」を掲げ、食をキーワードとして、すべての産業の活性化を目的に施策展開しています。また、市で進める水の郷工業団地への企業誘致については、近年、食品企業の進出が盛んになり、テブルマーク、ホリカフーズに始まり、ブルボン及び今年に入りマルコメの進出が決まりました。

その名のとおり豪雪による豊富な地下水の利用を通じ、食の代名詞である「魚沼」の地に力強く根付くことが期待されます。



◎面積：946.76km<sup>2</sup>（平成29年3月末現在）

◎町長：佐藤 雅一（さとうまさかず）

◎人口：37,283人 世帯数：13,263世帯

◎主産業：製造業、建設業、医療・福祉、卸売業、農業、宿泊業

◎産業別就業人口：19,819人（第1次9.2%、第2次33.3%、第3次57.5%）（平成22年現在）

◎交通：東京より上越新幹線浦佐駅1時間30分、練馬から関越道小出インターまで3時間

## 東京農大との関係

1. 農友会準硬式野球の合宿受入れ
2. 「玉川酒造」との研究会 短期大学部 醸造学科 数岡孝幸准教授
3. 東京農大地域連携意見交流会への参加
4. 東京農大 杉浦名誉教授による取り組み  
魚沼市に「山菜共和国」設立し、全国で研究大会の開催  
全国山菜サミットを過去2回魚沼市で開催
5. 「過疎地域の地域再生に関する実態調査」 食料環境経済学科 立岩寿一教授

## 東京農大出身者

横山正樹【元市立堀之内中学校長（S50年畜産卒）】 横山美智子【自営業（H51年 農学卒）】  
榎本守 【山田精工(株)（S56年農経卒）】 鈴木 信一【グリーン倶楽部（S61年 醸造卒）】  
井上 周二【農業（H14年地工卒）】 櫻井渡【農業（H16年産生卒）】  
田島 周作【玉川酒造(株)（H19年短醸造卒）】 田中香【北魚沼農協（H25年産生卒）】  
星 正人【魚沼市農林課長（S57年農経卒）】 内田 有香【土木課主任（H12年 生物生産卒）】  
小島 秀彦【魚沼市ガス水道局（H8年 生物産業卒）】

## 今後の交流の可能性

- ①地域づくりに関する事項
  - ・ 過疎化、高齢化が進む中で、限界集落及び準限界集落における地域資源を活用した地域活性化方策
  - ・ 中山間地域農業持続への共同事業
  - ・ 課題解決及び人材育成による魚沼市への学生インターンシップ
- ②地域産業の振興に関する事項
  - ・ 食をキーワードとした新たな商品開発 ・ 魚沼ブランドの強化、発信
  - ・ 伝統産業（炭焼き・紙すき）の後継者育成と商品開発



ブナ群生林



白炭塾



紙すき体験

### ◆東京農大の窓口教員

醸造学科 数岡孝幸教授 国際バイオビジネス学科 土田志郎教授 食料環境経済学科 立岩寿一教授  
地域創成科学科 宮林茂幸教授 生物応用化学科 辻井良政准教授

### ◆魚沼市の担当窓口

魚沼市役所 農林課 星 正人

〒946-8555 新潟県魚沼市今泉1488番地1 TEL：025-799-3485 FAX：025-799-2250

E-mail：hoshi-masahito@city.uonuma.niigata.jp

締結日 2018.2.14